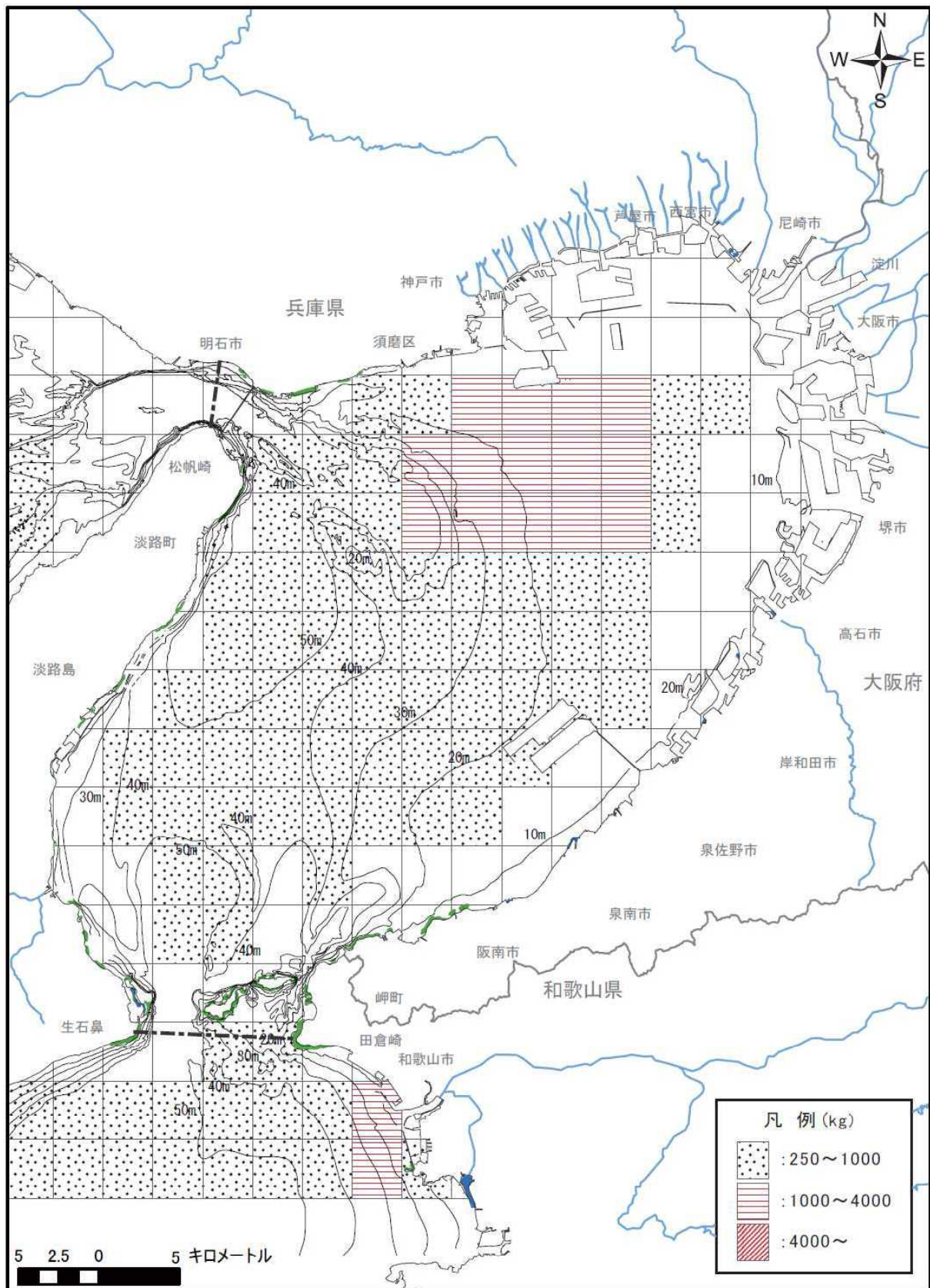
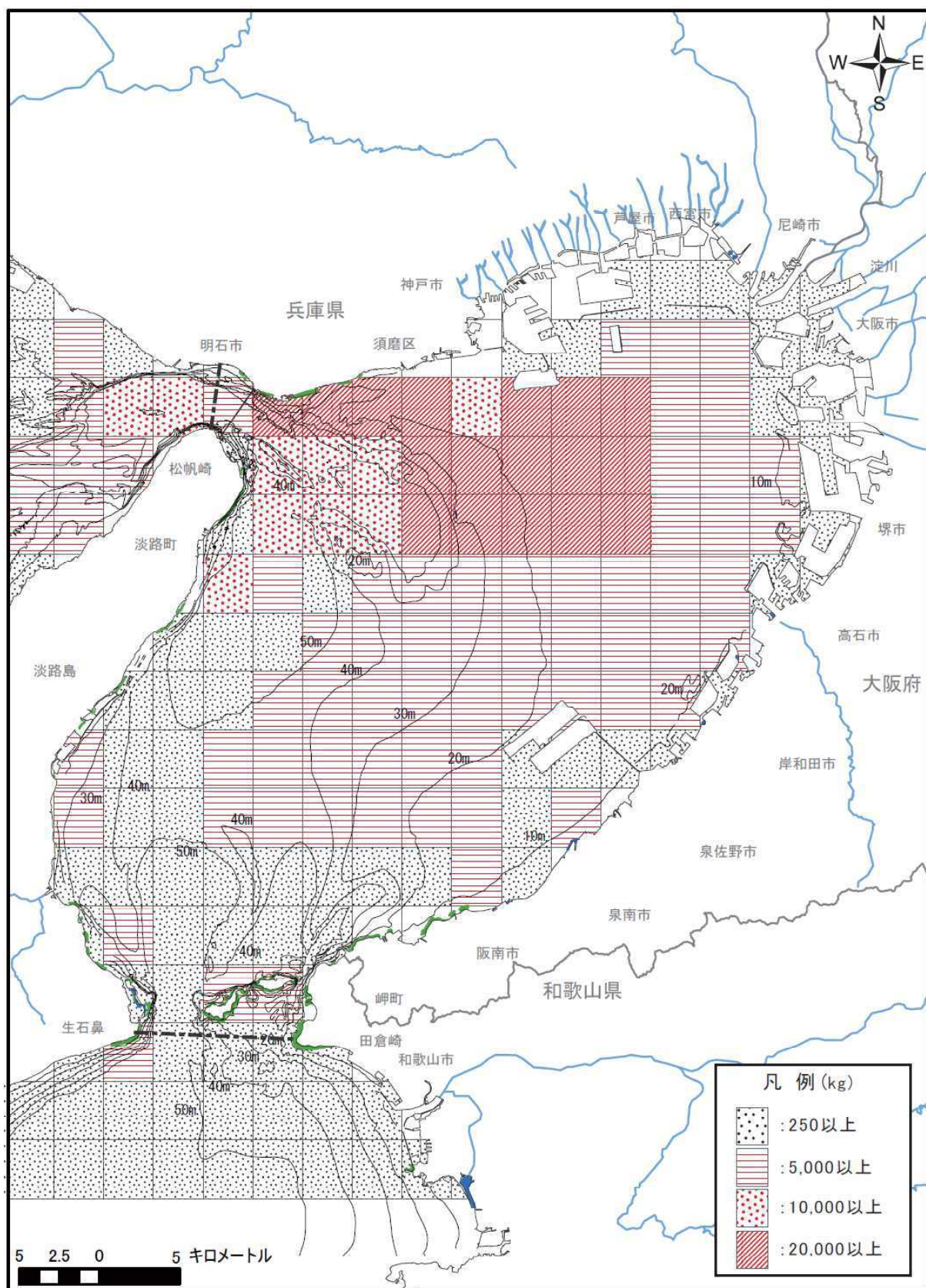




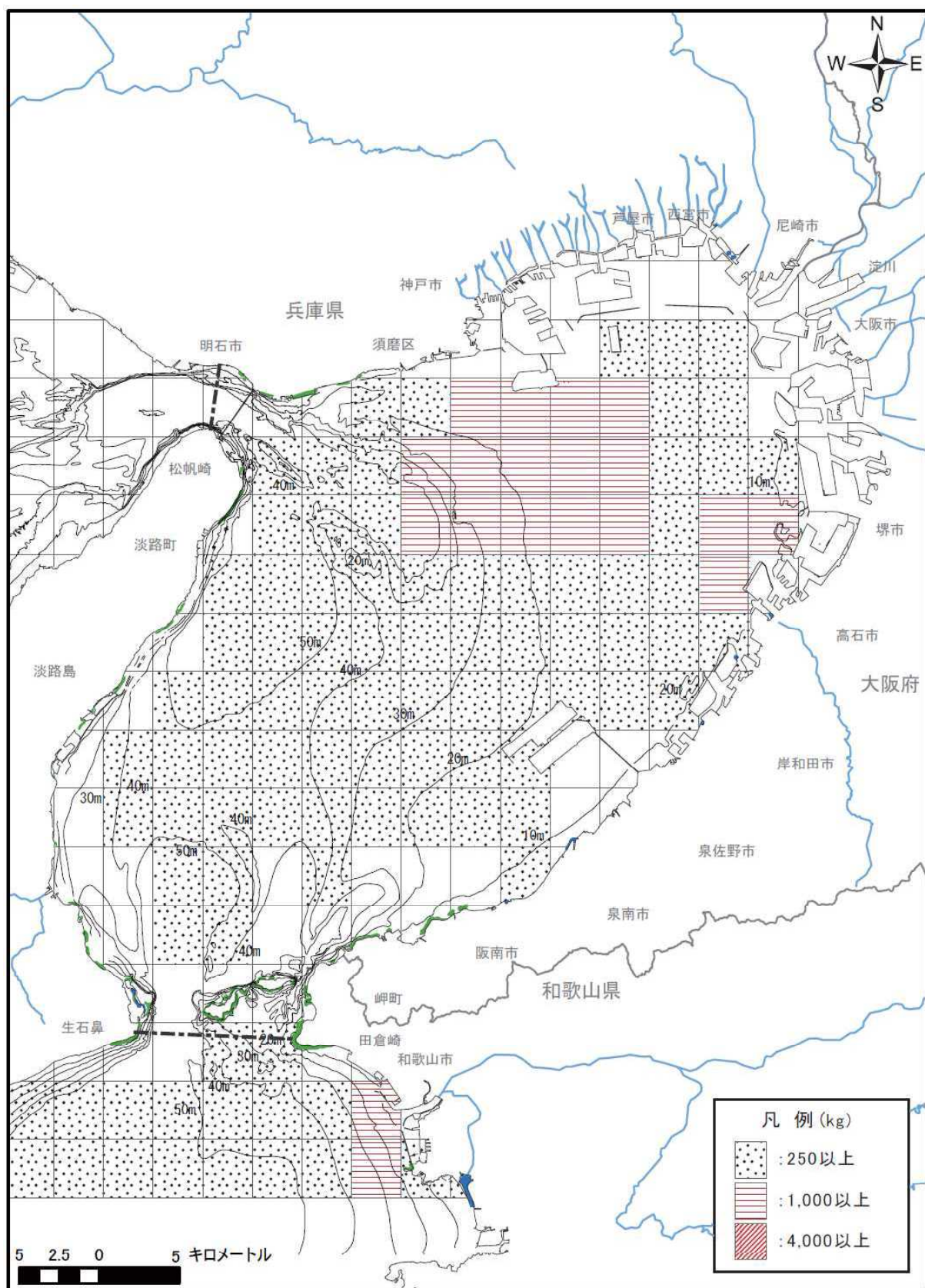
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 10 (6) 主要魚種の漁場分布図（クルマエビ）



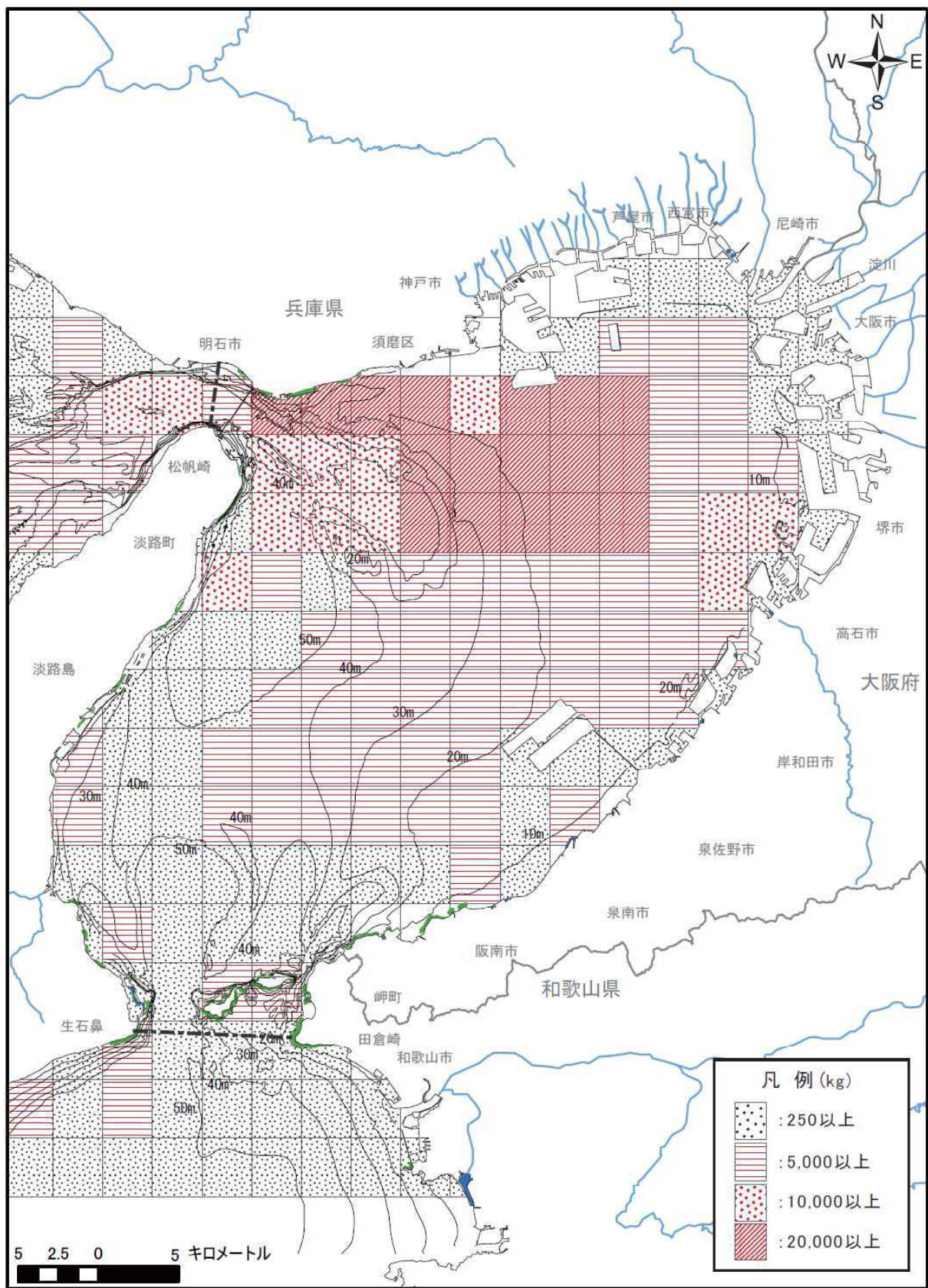
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 10 (7) 主要魚介類（スズキ・カレイ類・ヒラメ・マダイ）の漁場分布図



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 10 (8) 主要魚介類（ガザミ・クルマエビ）の漁場分布図



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図10(9) 主要魚介類（スズキ・カレイ類・ヒラメ・マダイ・ガザミ・クルマエビ）の漁場分布図

《主要魚種の魚卵・稚仔現地調査結果からみた産卵場・生育場》

次頁以降、図 11～図 12 に魚卵・稚仔の現地調査結果を示す。

本現地調査結果、前出の漁場環境評価メッシュ図（親魚の分布）、ヒアリング結果等を踏まえ、魚種別の産卵場・生育場としての利用状況について考察・整理し、下表にとりまとめた。

表 9 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
スズキ	スズキ卵を含む可能性のある卵は湾南部、湾南東部、淡路島北東岸において、スズキ及びスズキ属の稚仔魚は湾南部、湾南東部、湾北西部において確認された。 大阪湾内には産卵場は存在しないとされるため、卵は湾外から潮流により移動してきたと考えられる。一方、有識者へのヒアリング結果から、湾北西部や湾南部にスズキの産卵場が存在する可能性が示唆された。また、稚魚の確認状況及び既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、淡路島北東岸から湾北西部、湾南東部にかけての海域を生育場に行っている可能性が高いと推定した。
イシガレイ	イシガレイ卵を含む可能性のある卵は湾南部において、稚仔魚は湾北西部、淡路島南東岸において確認された。 大阪湾の産卵場は水深 30m 以浅、生育場は水深 10m 以浅の砂泥底とされている。卵及び稚仔魚の確認状況、既存資料から、湾南部や湾北西部の沿岸部を産卵場や生育場に行っている可能性が高いと推定した。
マコガレイ	卵は未確認であり、稚仔魚は湾北西部、湾南東部、湾南部、淡路島南東岸の地点で確認された。 大阪湾の産卵場は水深 10m 以浅、生育場は水深 30m 以浅の砂泥底とされている。 孵化後間もない稚仔魚が確認されていること及び既存資料から、湾北西部、湾南東部～湾南部、淡路島南東岸の沿岸部の浅場や藻場を産卵場及び生育場に行っている可能性が高いと推定した。
ヒラメ	ヒラメ卵を含む可能性のある卵は湾南部において、ヒラメ稚魚は湾南東部において確認された。 大阪湾の産卵場は水深 20m～50m、生育場は水深 10m 以浅の砂泥底とされている。 卵及び稚魚の確認状況、既存資料から、湾南東部～湾南部にかけての沿岸部を産卵場及び生育場に行っている可能性が高いと推定した。
マダイ	マダイ卵を含む可能性のある単脂球形卵は湾北西部及び湾南東部から湾南部にかけての地点で確認された。稚仔魚は未確認であった。 大阪湾内にはマダイの産卵場に該当する水深 30～100m の岩礁域は存在しないとされるため、卵は湾外から潮流により移動してきたと考えられる。一方、有識者へのヒアリング結果及び既存資料から、湾南部のハイブノ浦付近に産卵場が存在する可能性が示唆された。
ガザミ	卵は未確認であり、稚ガニは湾南東部の干潟において確認された。 大阪湾内での産卵場は湾北西部の浅場や湾南東部の干潟の水深 10m 以浅の河口や砂泥域であり、産卵場付近の砂泥域や干潟が生育場とされている。 稚ガニの確認状況及び既存資料から、湾南東部から湾南部にかけての干潟や河口付近を産卵場や生育場に行っている可能性が高いと推定した。
クルマエビ	卵は未確認であり、稚エビは湾南東部の干潟において確認された。 大阪湾内での産卵場は水深 10m 以深の沖合域、生育場は水深 25m 以浅の砂・砂泥域や干潟とされている。 稚エビの確認状況及び既存資料から、湾南東部の干潟や河口付近を生育場に、その沖合域を産卵場としている可能性が高いと推定した。

既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月、水産庁）

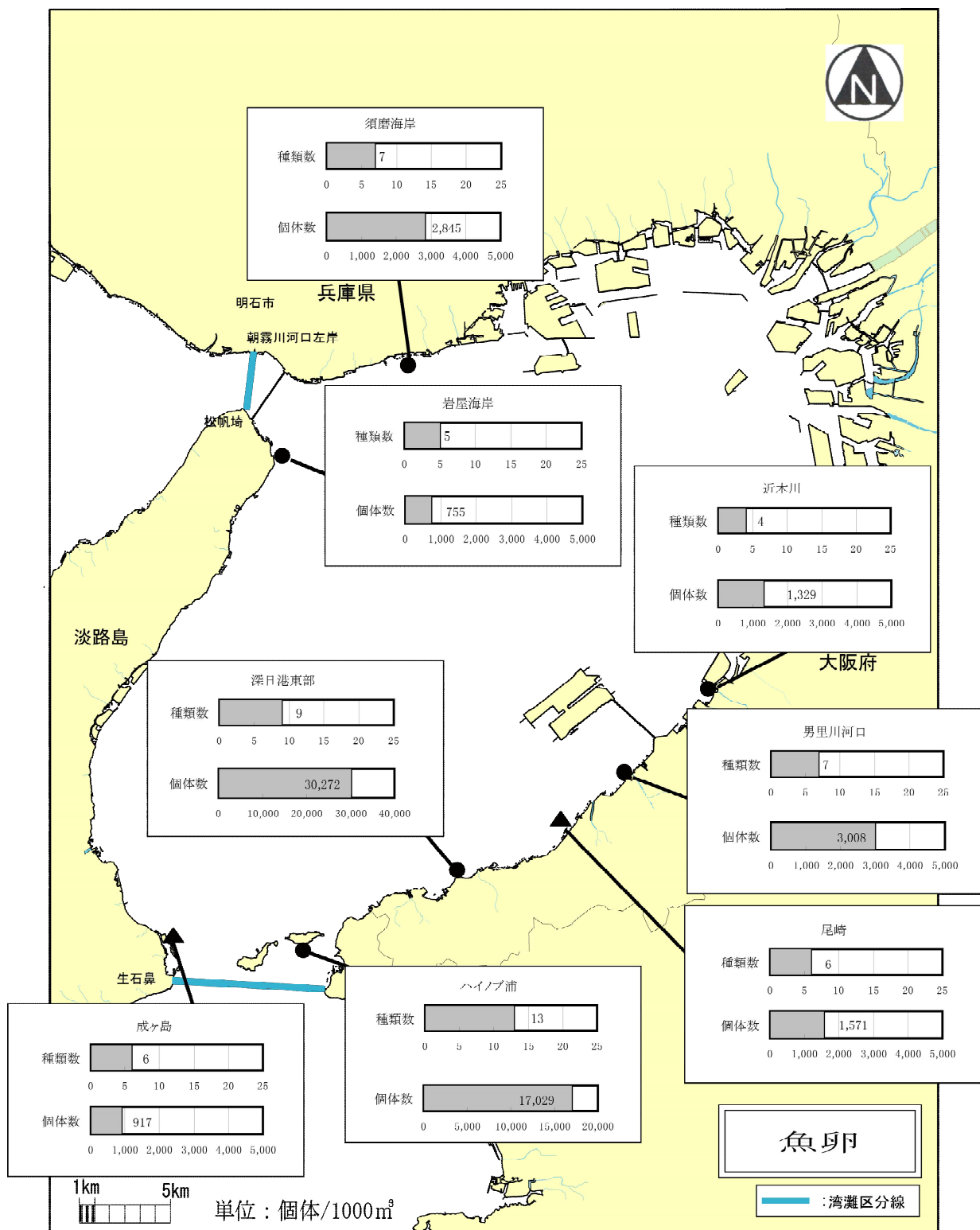


図 11(1) 大阪湾における地点別魚卵及び稚仔魚出現状況（夏季，魚卵）

出典) ●地点：平成 21 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査（環境省）
▲地点：平成 24 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査（環境省）